

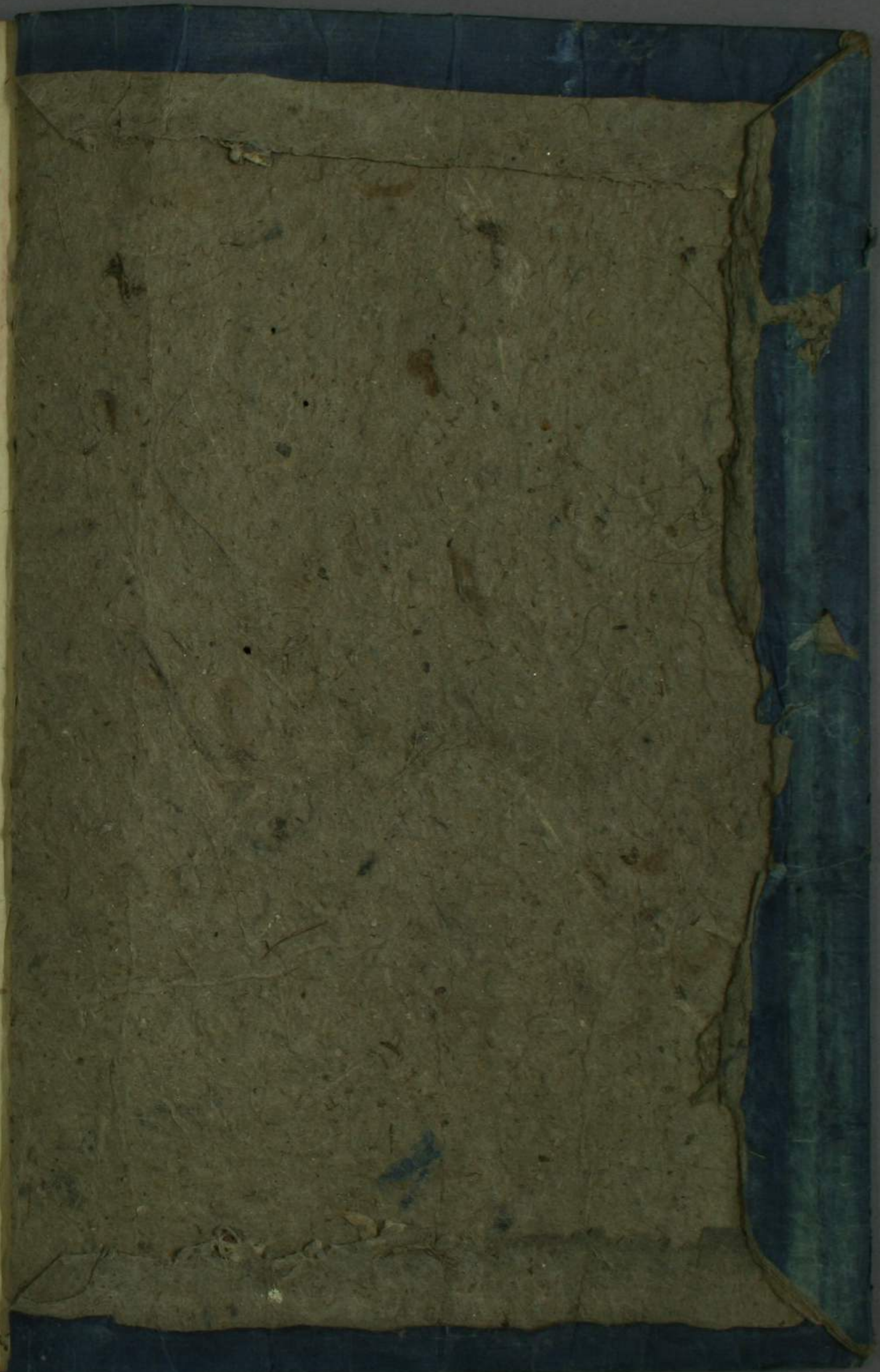
特別  
ル 3  
432  
3

特別  
ル 3  
432  
3





Handwritten text in vertical columns, likely in Japanese or Chinese characters. The text is faint and partially obscured by ink smudges and a large tear on the left side. There are several red square seals or stamps at the top of the page.





新

新

○金谷

いふれいし山たむらに  
こま川村を秋のけしに  
いふれいし山たむらに

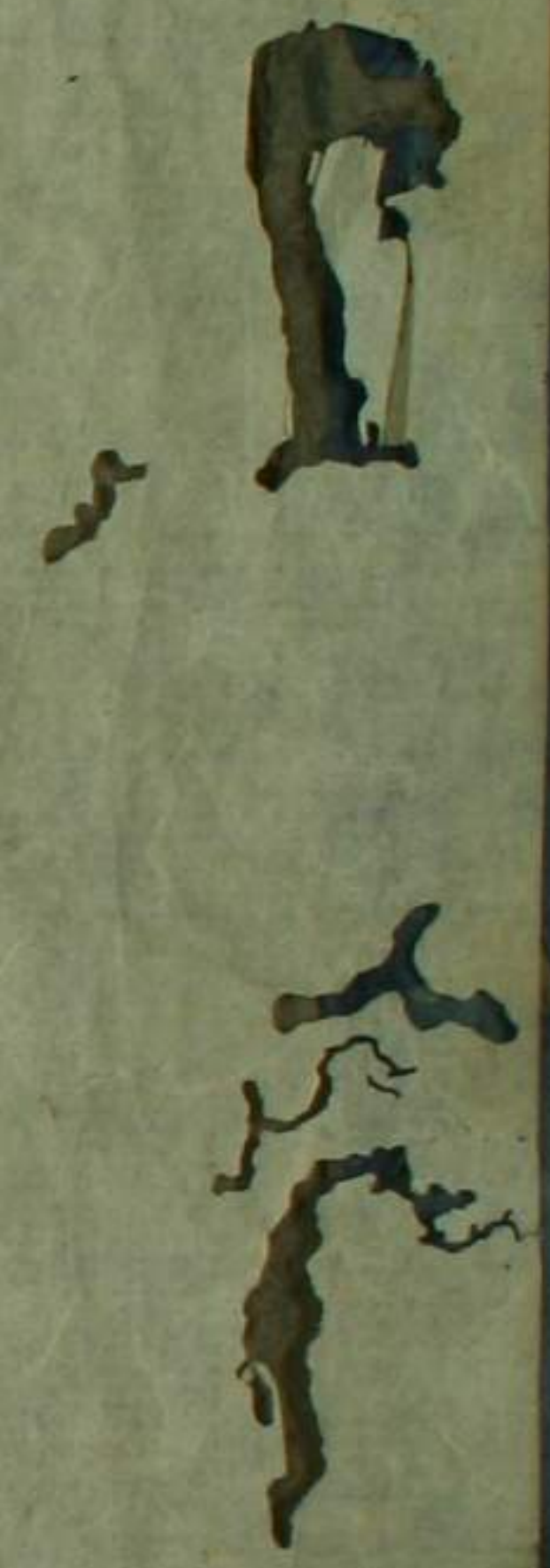
○引馬野

もろの長はし様引馬野の秋は乃を  
むく海野おらなは思ふ又こま川  
照少松のし野子目てもかに

○御湯原町

いふれいし山たむらに  
こま川村を秋のけしに  
いふれいし山たむらに

いふれいし山たむらに  
こま川村を秋のけしに  
いふれいし山たむらに





○**新川**  
は新川に小川に流るる川也

○**新川**  
新川の草は母とて袖の如く新川の  
いと母の根根は乃名入るる

○**新川**  
切給は名物也

○**新川**  
新川

○**新川**  
むらじ里の松の合名名の家につ  
はありておるを道いし山並は

○**新川**  
さうらちの松はし脈より野子の  
おしりて後母のこころ成りて

○**新川**  
右のわづれ松殿の松とて山並  
さうらちの松はし脈より野子の

○**依和中山**

依和中山の中山申に言つし時を  
旅衣を脱ぎては旅衣の中山風也  
名のおとけ井はし脈より野子の

○**新川**

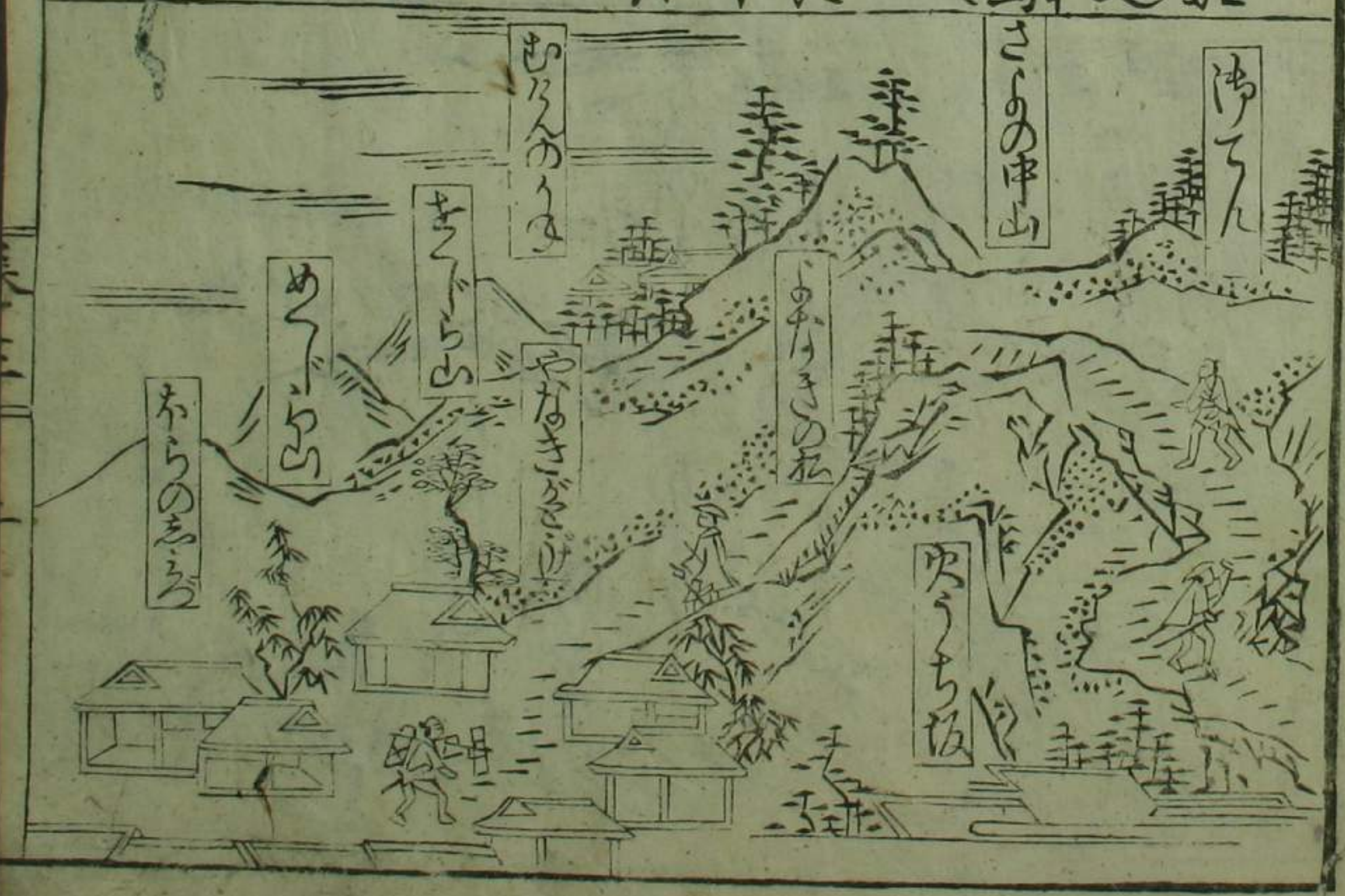
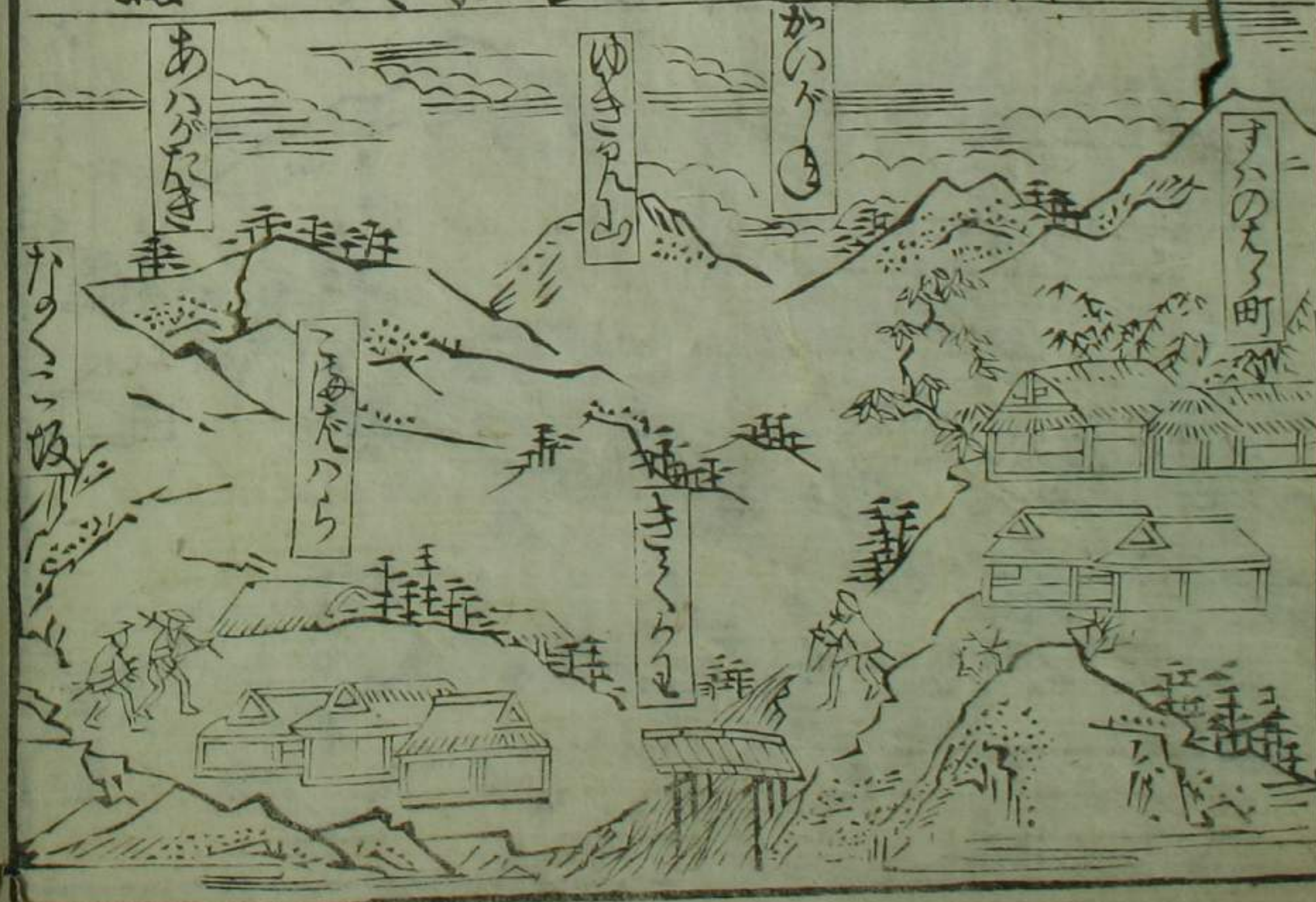
人の後り松をいふ松はす母子に  
は松を削りてらん守母かみすや  
さうらちの松はし脈より野子の

○**新川**

是に中山の種を毎年二月の  
初年に熟人系種を

○**新川**

いひし其石あるをいふは  
諸君とて御山のさうらち





○西坂

西坂の屋敷の軒下は山あり  
後乃も葉に蕨餅とせりか  
世にまきし鳥石物とせりか

○八幡宮

八幡宮の毎年の大あり  
むしり燈籠のふりか  
元乃れりて蕨餅の池あり

○掛川

掛川の懸河の原あり  
りりり久徳の城あり  
小松の長繩も平地也

○小沼田

○原川

○結田村

○浅田

浅田の山母とせり  
右の山母とせり  
海原とせり

○不味川

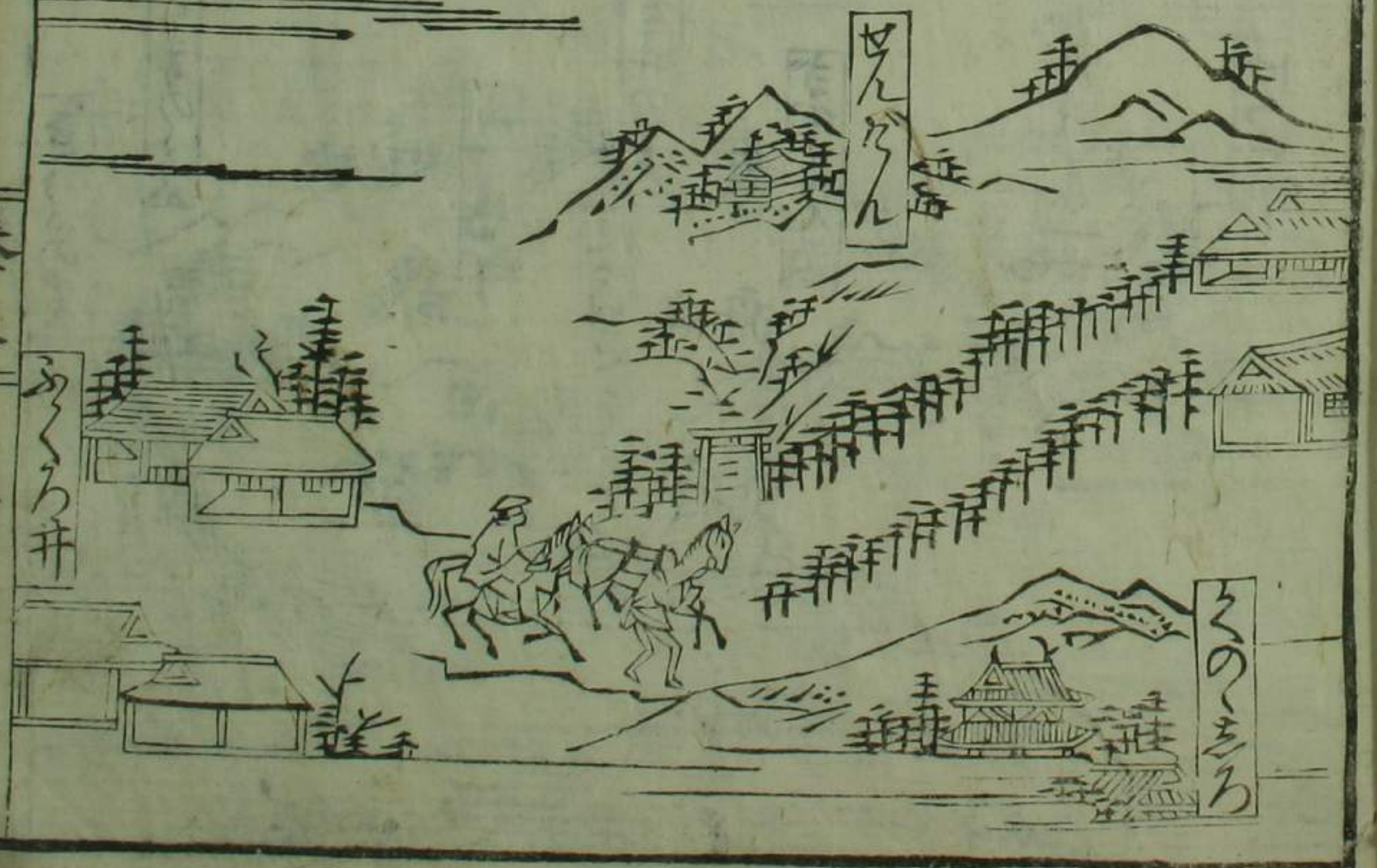
不味川の石あり  
に松のつぎと菊のつぎあり

○袋井

袋井の山あり  
乃松の山あり  
乃松の山あり

○本原

本原の山あり  
乃松の山あり  
乃松の山あり









ゆけをそよが山のまきまの里  
 大森村のそと地つたは  
 津田乃宿

あしは里に程ありあまの御  
 徳全を命に御者さしはる湯  
 谷との一帯の表形ありに午の  
 家登程すまのひきほひい  
 乃申もたなり

○天竜川 ○小笠原

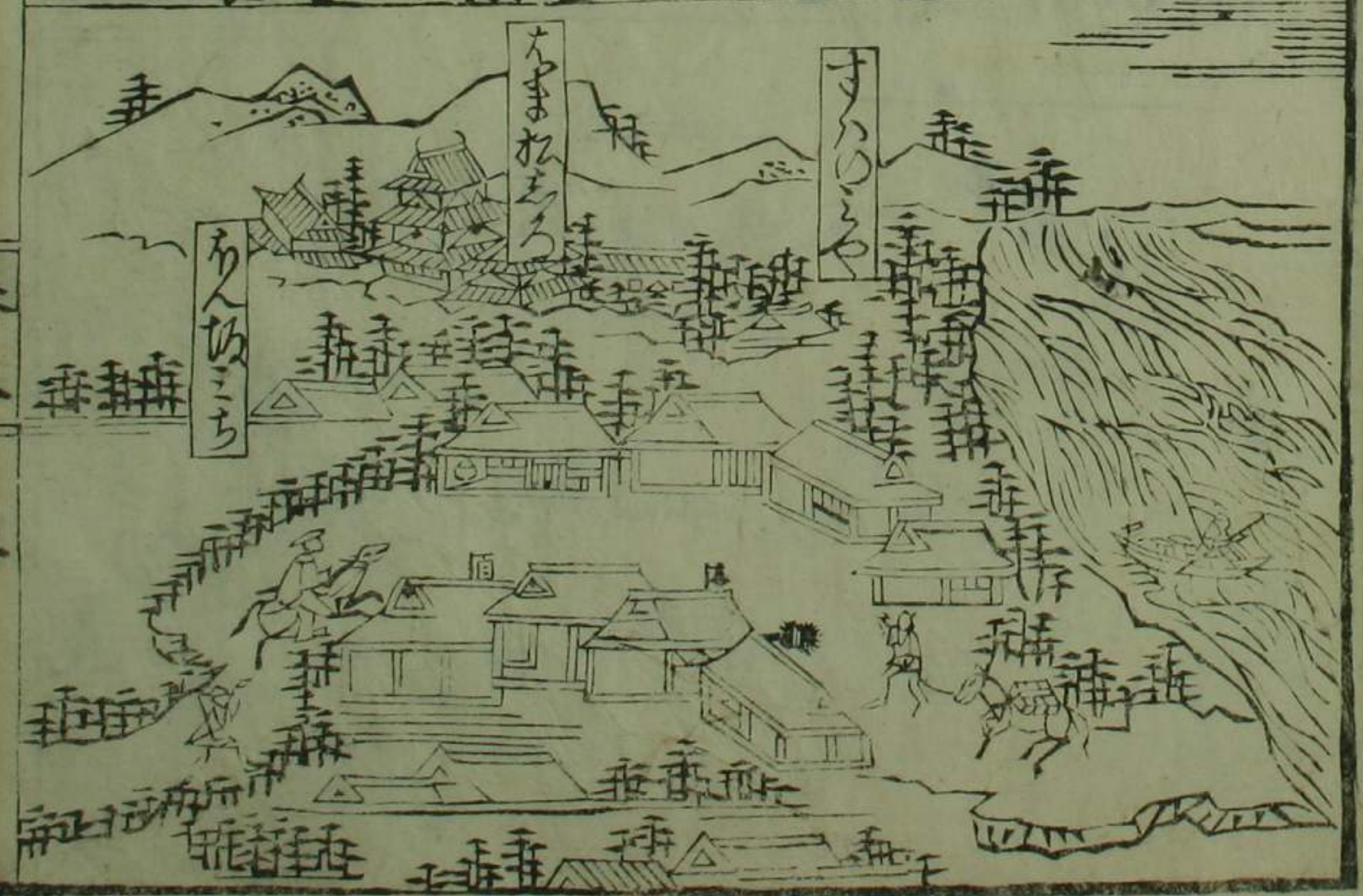
毎度此早川也水ら信濃  
 國に海よりの流をせし  
 新田方ゆめ貞と足利さ  
 ぐと合戦ありし河川のあり  
 時の中へ

○子身勿妻  
 申は所とせざえあま

十二間とあるのうたはありて  
 茶師堂と云はるる松とて  
 つまの松やなりや柏松村  
 へこの系がらふあまの  
 あつた天玉の社と云はる松村  
 の松三十二間と

○淡松 左田後中も殿城下

所築長くもんとやの言なり  
 在はる所中に淡松と云はる  
 社といふ家のあまの松村に  
 足代を名物なりあるうたは  
 越のたありと云はるこのあま  
 了りて大海はあらうと云はる  
 松の灘といふ地はより松東  
 砂をたふしと云はる松東  
 若木村の邊と云はる松東













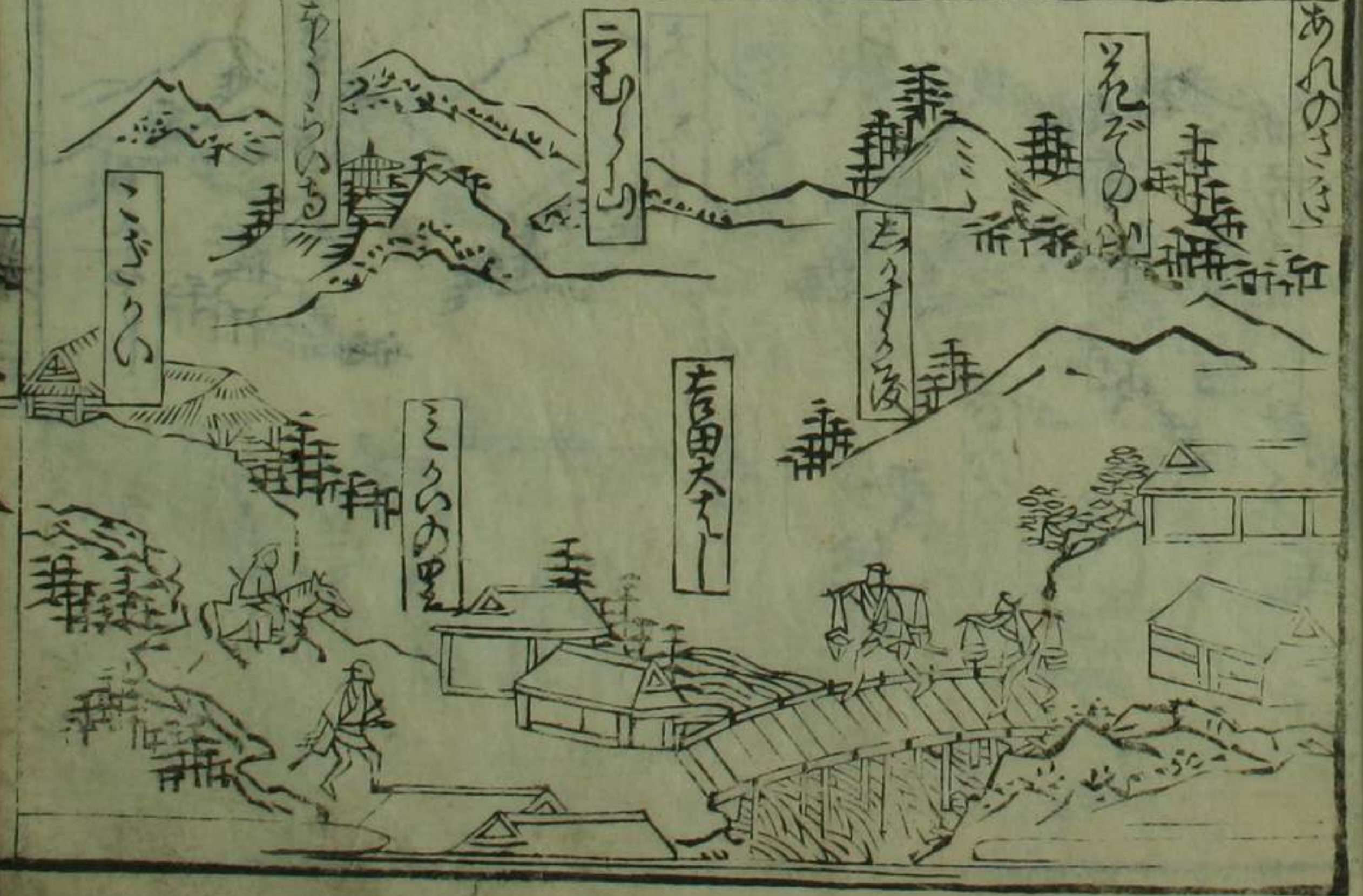
橋下より小舟をこめてお茶の寺  
御寺より舟をこめてお茶の寺  
院子観音と切付てお茶の寺  
お茶の寺と切付てお茶の寺  
お茶の寺と切付てお茶の寺

○大岩村 小岩村  
右の山つゞきに燈台といふ所  
ふは古跡ありひうちいふ所  
同一の所なるべし其風系な  
るるの跡ありあるぬる  
○石時山 小岩村  
けねの陰ひうちのかし海をの  
茶屋網元をた切りし跡なる  
とくろなるなり  
○古田 小岩村市正敷城下  
右のくこの山嶽町をた切りし跡  
就商人の切りし跡なり



○長橋 百三十五間  
白子にかしおつぎなるなる  
かこなるを山舟をた切りし跡  
○花園山 小岩村市正敷城下  
切をた切りし跡なるなるなる  
○二村山 小岩村市正敷城下  
右のくこの山嶽町をた切りし跡  
就商人の切りし跡なり

○鳳来寺 寺領七百四十一石  
けねの山に古自理の跡あり  
今佛法のまのちとたのまのち  
持しるるなるなるなるなる





石田孔里をききて渡先あり  
と云ふ松平物とて海をり  
むくし山尾舟旅のやうな  
せほふまきまきし山尾舟  
つぎなりそれよりすうあ  
山尾舟大まきまきとらふ

油

いさるむくし山尾舟とて  
人あつたんた思ふてくわ  
わき渡りたの時も神を  
うきとまきまきとてか  
あはれこくし山尾舟の  
はてしなく旅人あつた  
ふせし又右れつた松の  
山尾舟大まきまきとらふ

本城道

初よりけりこ松平す  
ふしとら山尾舟と作  
あはれこくし山尾舟の  
あはれこくし山尾舟の

赤坂

いさる東海舟とての  
あはれこくし山尾舟の  
いさる東海舟とての  
あはれこくし山尾舟の  
いさる東海舟とての  
あはれこくし山尾舟の

長浜

いさる東海舟とての  
あはれこくし山尾舟の  
いさる東海舟とての  
あはれこくし山尾舟の  
いさる東海舟とての  
あはれこくし山尾舟の

法光寺

いさる東海舟とての  
あはれこくし山尾舟の  
いさる東海舟とての  
あはれこくし山尾舟の  
いさる東海舟とての  
あはれこくし山尾舟の





漢をこれ門前の里に下りて  
 乃底とさきりおぼゆのりたれ  
 月夜ちくとつとつとくすきて  
 初ざりれうにたつて山は  
 天王のやうきせはふ  
 ○藤川

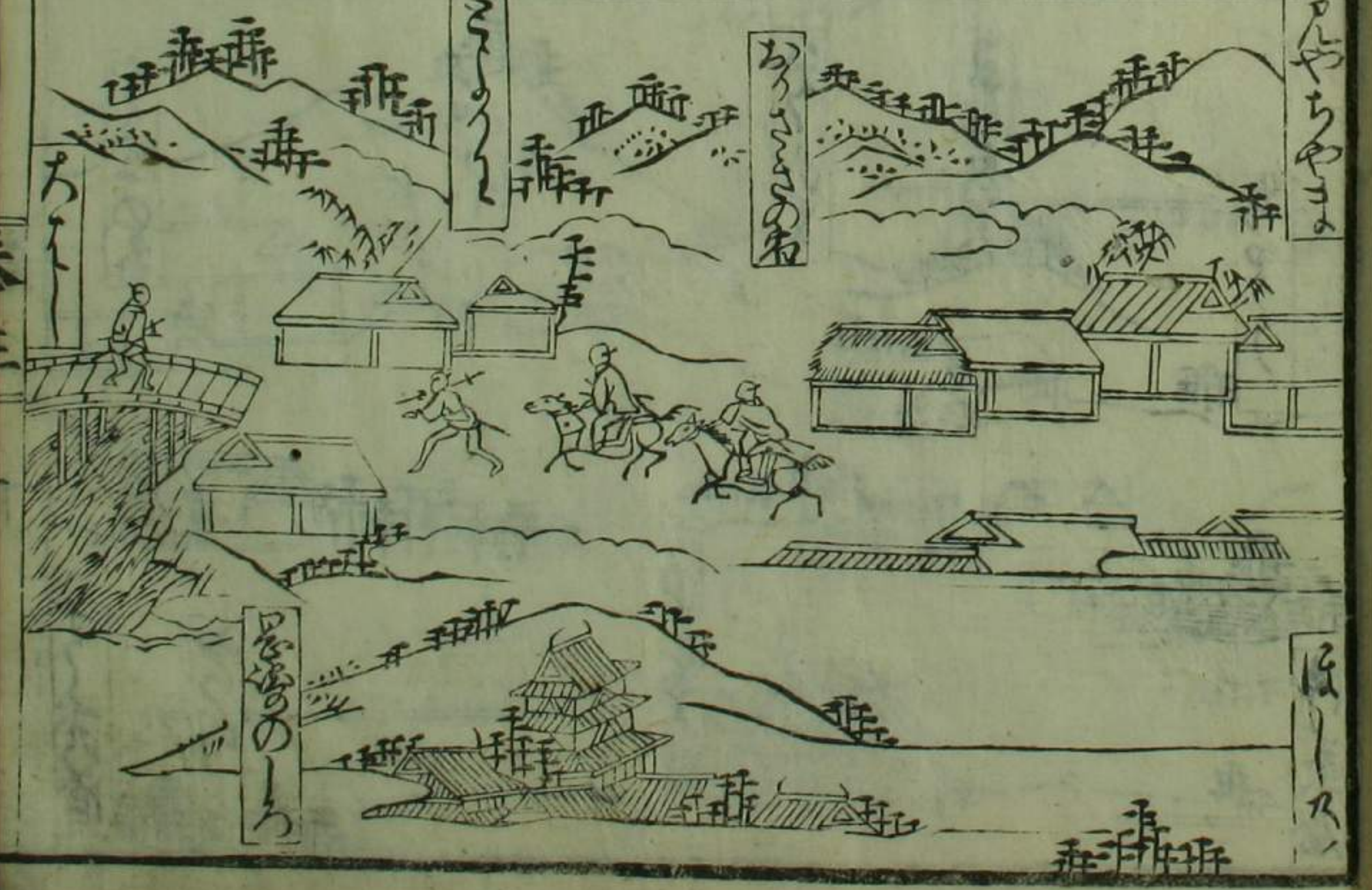
是より岩の端依り由れ所とさ  
 てたのかたの西尾乃下への名を  
 右れくして湯茶屋ありしは  
 乃里くにさう細工の早繩張じ  
 の上りあり

○大平川  
 漢流なれもあはれき一橋  
 世十二間ありあつてくろく  
 乃流りてゆりまきよりと  
 漢のくまゆれ鎮守也

○文地山  
 悪くありて井まえつと文地山打越りて  
 ○思海  
 珠のたのかたのりて作りたれきそ  
 系れ商人富に集りてむくは家  
 在女ありて子孫の豊ありと家  
 ころひ初め町とさき松原川はよ

○岩河  
 橋のたききり今も流るる見ゆん  
 ○矢初里  
 毛をせはていし様らやえきれ川乃  
 或百八回の長橋をゆりて矢初と  
 名付る事目なきのそ東夷と

一目五弁









海に臨む世の皮にゆくら浦は浪の掛る後  
右里にかりつこりたり終末なるんが人の声

○松風の里  
袖の字をばも男はくそ女はくそ世に流る

○松風の里  
吾風の里に改めらる海は松風のよきかたなるん地社

○松風の里  
他人の事とてはくそとてはくそにいて

○松風の里  
海に流るる世の皮にゆくら浦は浪の掛る後

○松風の里  
物論山竜福寺の筑まら八坂の所  
作は像としてせきとせきとあおま

○松風の里  
三十二年四月に因縁と  
中納言 ○田島格 ○乃初村

○松風の里  
山崎の里に在り名は古屋の城といふ

○松風の里  
町の合点のりて三途川の城は浪  
をくそとせきとせきとあおま

○松風の里  
よまを補のまわらたるの甲よ

○松風の里  
熱田社

○松風の里  
い出林ハ村吏の奴と納め景行天皇

○松風の里  
平九年に敏達天皇日本武のそり乃

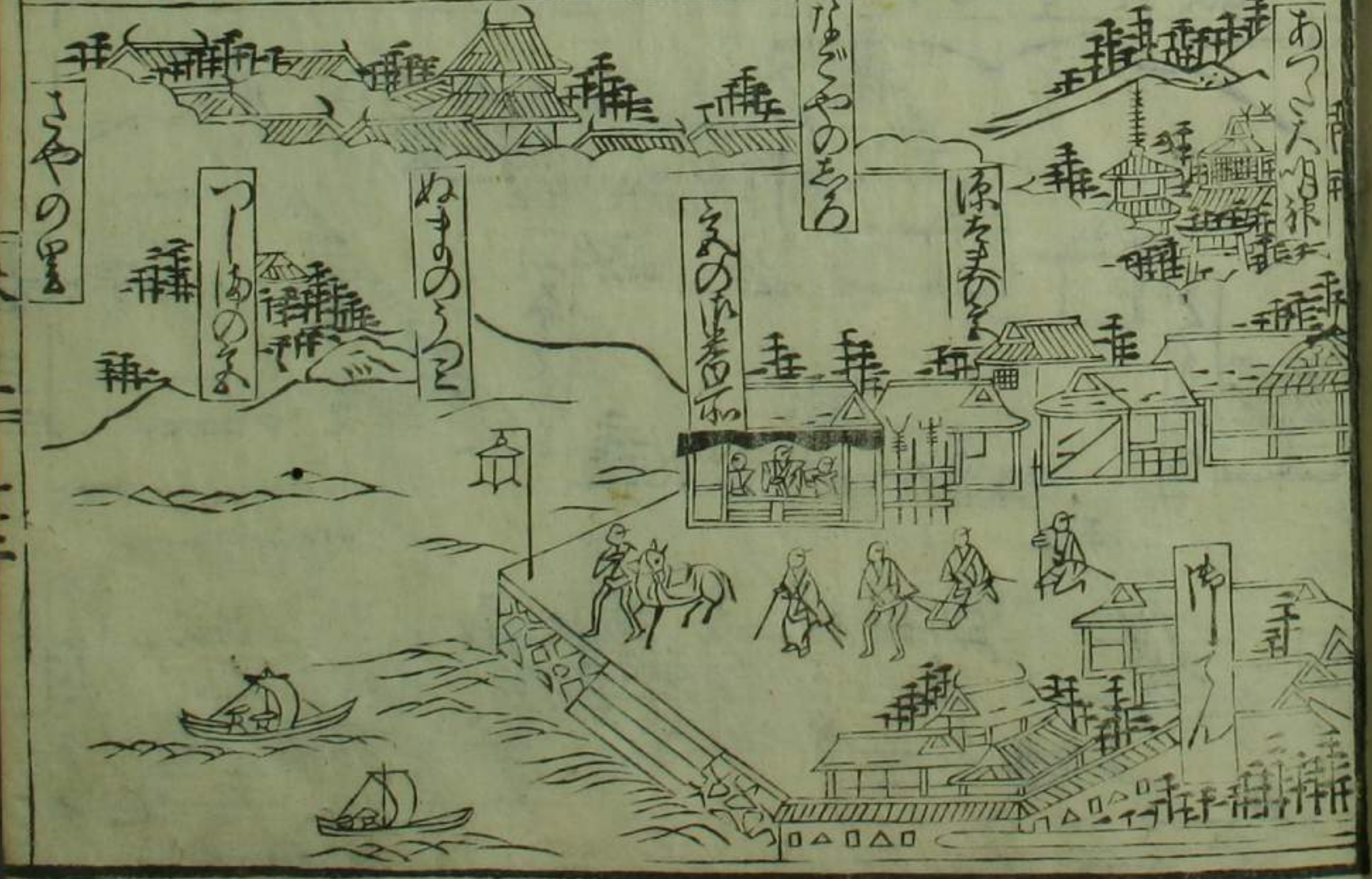
○松風の里  
津垂跡也西津門の編子蓮葉山

○松風の里  
五ヶ浪の形は村吏たり又三津は

○松風の里  
即山の石塔もまた長武人あり

○松風の里  
是を揚をたの強とせし

○松風の里  
船着不





○素名

松平越中守の居城下

たのがし海を信じて築き石舟  
ま多和見しつりつ子標木杖物  
い浦の蛤塘しり真名物也  
昔目津見原の天皇は信じて  
治り大伴の王子のしりよ  
ひあし海軍のいん家あま軍兵  
とりしり農園不破の園れ合  
我は伊豆のむを治りしり  
厚成天皇の乃伊時あるの  
ひりしり是とい素名は浦  
ありありし鷹取やむりしり  
伊豫の海おれかむりしり  
尺くは信じてしり此の浦  
信じてしり此の浦



○町屋川

山崎の町屋川は百六十間の長  
なる也縄川村あり世村あり  
村ありて信じてしり此の浦  
乃信じてしり此の浦

○月水の里

町つぎの海はなり此の  
よの回乃川流すあり

○四井川

素名よりして事なり早川の  
是より里くしり此の浦  
くして農園のち此の浦  
信じてしり





○家田の里

町作の里とて其てむらじり  
みとちの村を乃乃里は和  
以八幡のやうなせほふと川  
川は橋み十九間と見え川  
とらんかきまり

○四月市

しむより新名ふありあ  
りまけうの月あよのあま  
き海也右のかうに海蔵とい町  
砂浜ふまればき物かま  
宿もたふれな海田は里  
坂村をゆきて右のうら乃松  
をや州うらうらと馬を杖  
やうら馬杖はふむの村を  
あはるああといふ

○追命

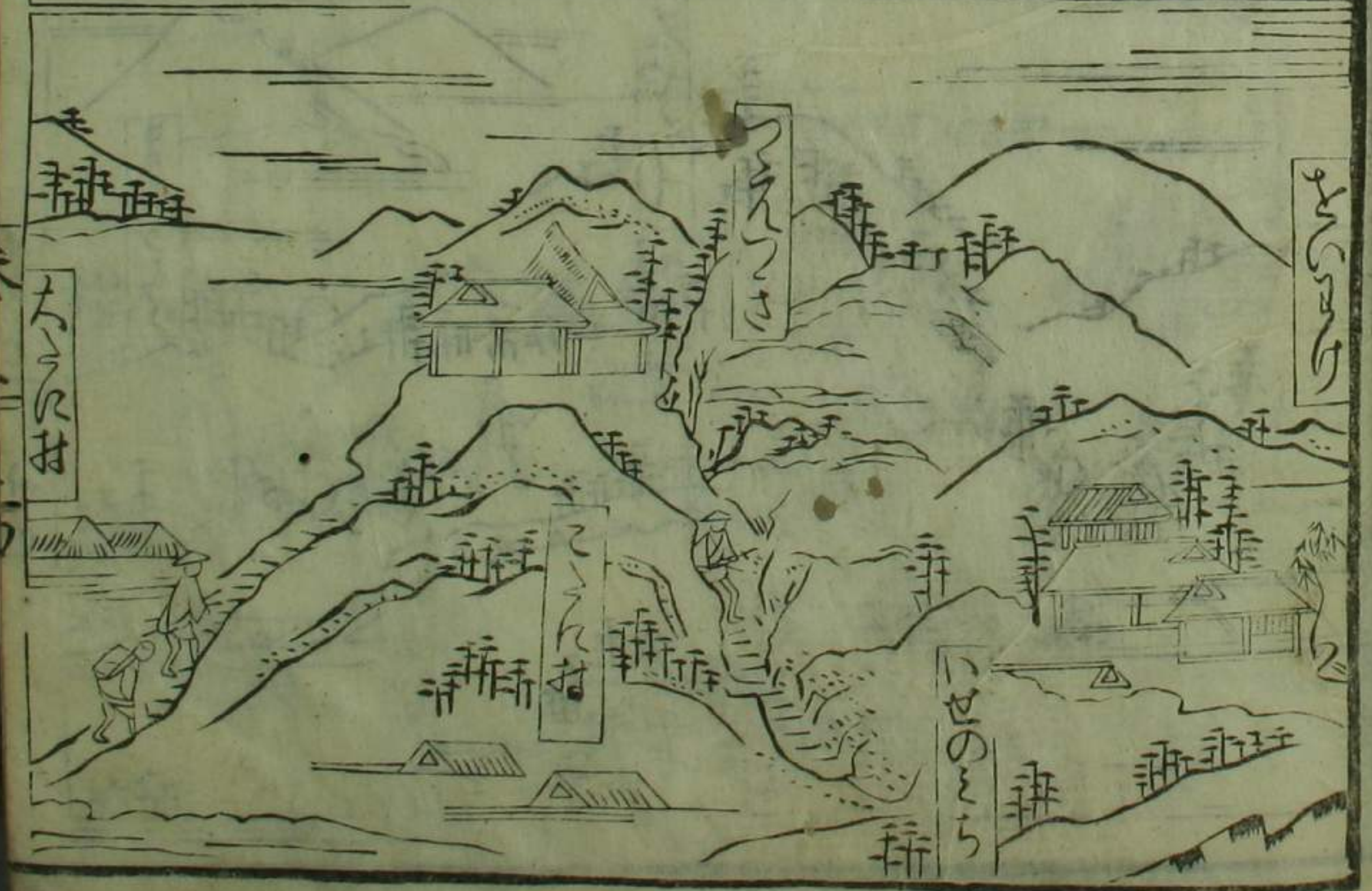
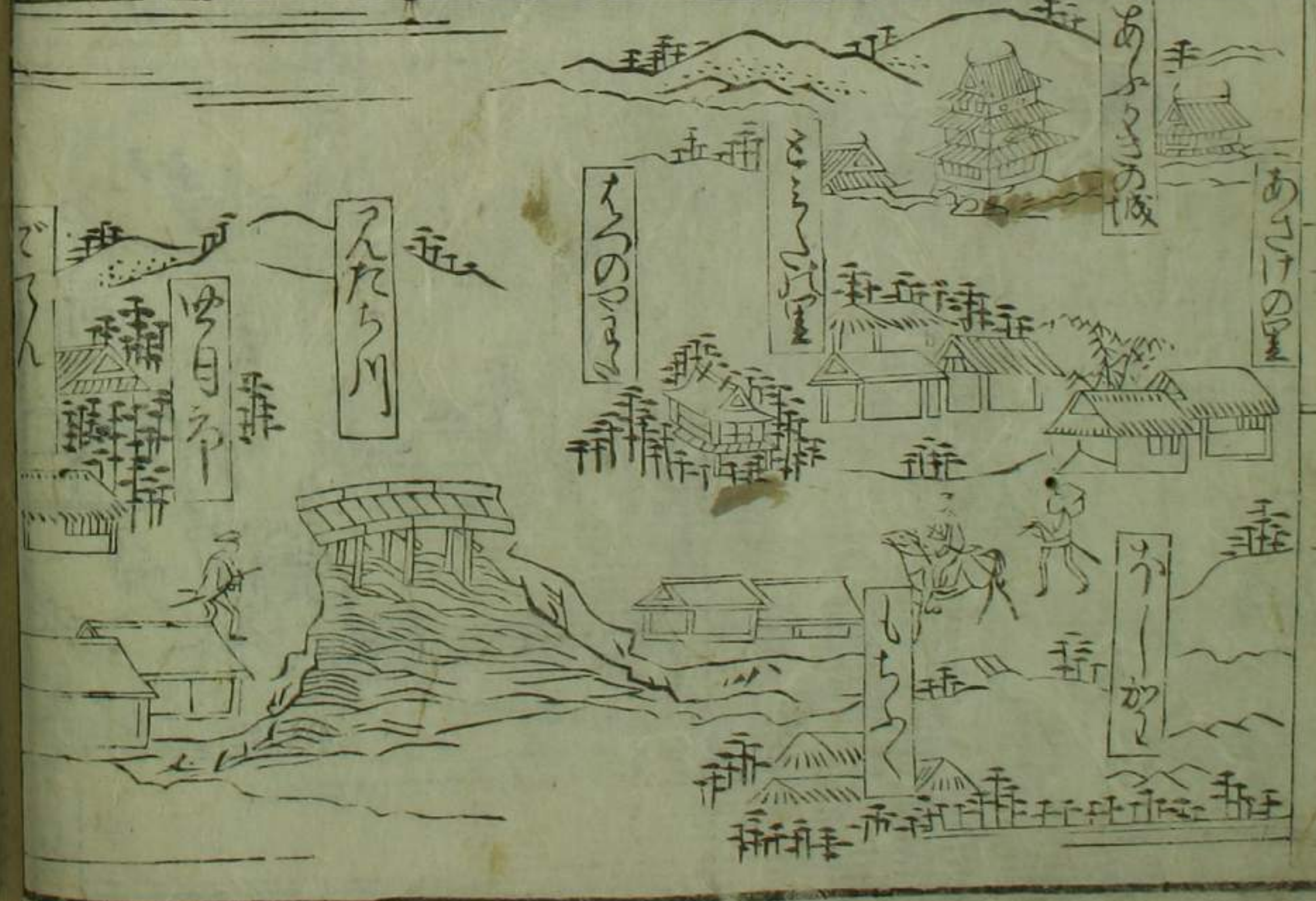
是より追命のりは追命あり  
ありと海邊也尾吉ありと  
すまへらうのあ河に砂川あり  
あ平岡の松を掛

○扶実の里

い所をさきにすうりきと  
けいさののりり馬と新  
乃和藤人と杖ありと平岡と  
杖のきの坂とつと追命の  
とりり一里ありと杖也

○大岩村

是と大岩村ありと平岡と  
年道に一と杖ありと右  
と見膝一何と杖ありと  
あまがく杖ありと





○鞠が原

むらりく松林のうらみ常茶を  
まききより里くと鐵をゆ

○茶師

宿のたれ茶のうらみ湯殿あ  
つたおれくこの下の茶師書  
あまの若月越の大徳泰澄法師  
徳園修り乃時いすじいあの中  
あてそいああとりも書なる所  
に光海のかやまうとたうりて  
らんあまの菊屋あやそのめりり  
十二の守権神ませあまを佛  
乃行所ありと別けあを刻と  
茶師あまのうらみとてそあ  
あまのあまのあまのあまのあ  
あまのあまのあまのあまのあ

○大野

くまのうらみ河川とまのうら  
けのうらみあまのあまのあ  
あまのあまのあまのあまのあ  
あまのあまのあまのあまのあ  
あまのあまのあまのあまのあ  
あまのあまのあまのあまのあ  
あまのあまのあまのあまのあ  
あまのあまのあまのあまのあ

○泉の宮

大川の七十圓のうけりうら  
た乃くうらみ白子あまのあ  
あまのあまのあまのあまのあ  
あまのあまのあまのあまのあ  
あまのあまのあまのあまのあ  
あまのあまのあまのあまのあ  
あまのあまのあまのあまのあ  
あまのあまのあまのあまのあ

○用

あまのあまのあまのあまのあ  
あまのあまのあまのあまのあ  
あまのあまのあまのあまのあ  
あまのあまのあまのあまのあ  
あまのあまのあまのあまのあ  
あまのあまのあまのあまのあ  
あまのあまのあまのあまのあ  
あまのあまのあまのあまのあ









Handwritten text in the upper left quadrant of the left page, consisting of several lines of cursive script.



Handwritten text in the upper right quadrant of the right page, continuing the cursive script from the left page.





Handwritten text in vertical columns, likely a list or index of items, possibly related to the illustrations below. The text is dense and appears to be in a historical or scientific context.



Handwritten text in vertical columns, continuing the list or index from the left page. The text is dense and appears to be in a historical or scientific context.





Handwritten text in a cursive script, likely a historical or geographical record. The text is arranged in several lines, with some words appearing to be in a different script or dialect. The ink is dark and the paper shows signs of age.



Handwritten text in a cursive script, continuing the narrative or record from the left page. The text is dense and fills most of the upper half of the page. There are some larger, possibly decorative or significant words interspersed throughout.





一、...

二、...

三、...

四、...

五、...

六、...

七、...

八、...

九、...

十、...

十一、...

十二、...

十三、...

十四、...

十五、...

十六、...

十七、...

十八、...

...





蘇州のの... 三井... 天智天皇持統三帝の...

○相板山

高天原の... 天智天皇元年四月...

○勸修寺

寺額五百石

醍醐天皇... 勸修寺... 天智天皇...

○粟極山

高天原の... 天智天皇元年...

○若の森

社額五百石

高天原の... 天智天皇元年...

○本様山

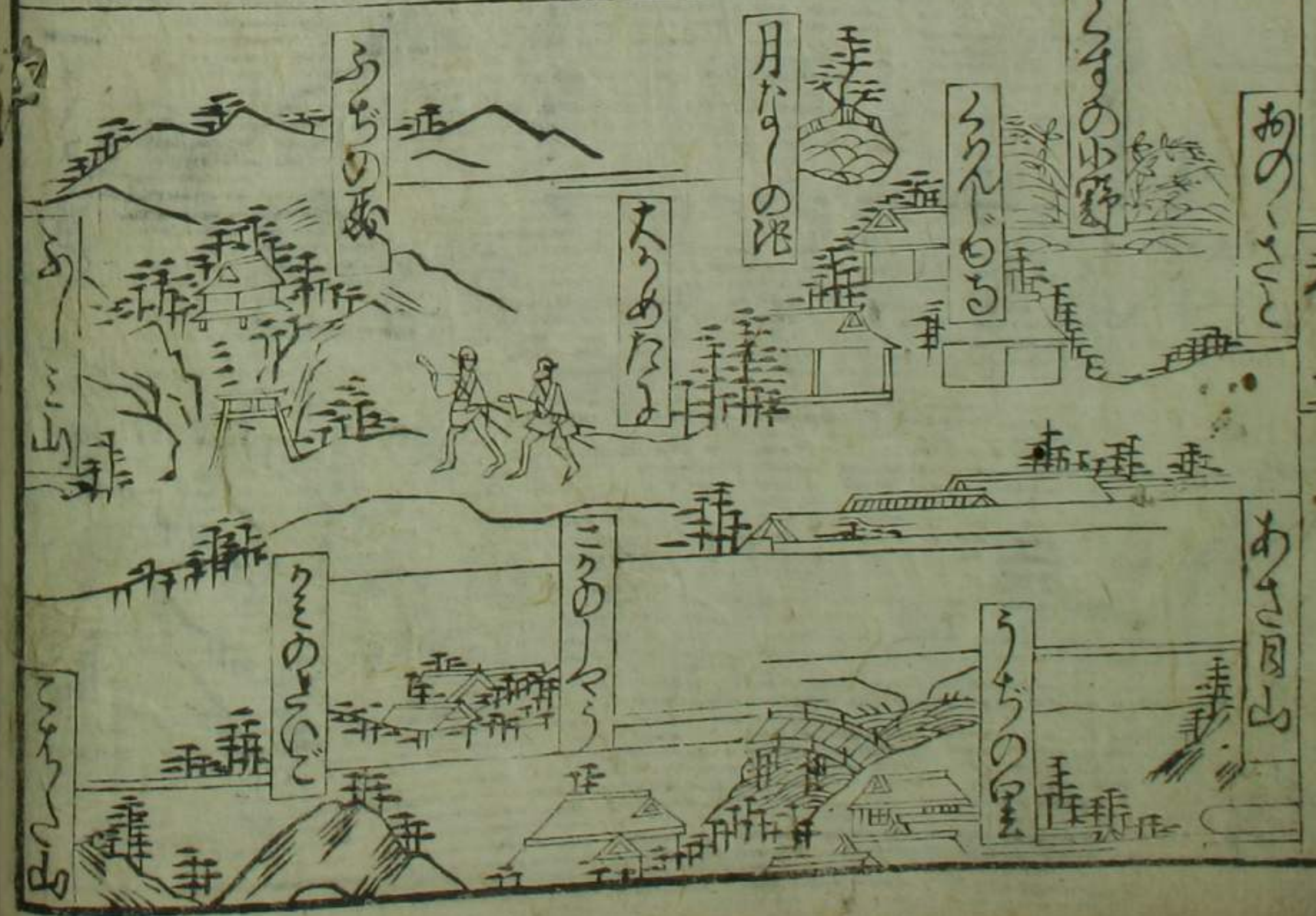
高天原の... 天智天皇元年...

○大和田里

高天原の... 天智天皇元年...

○宇治里

高天原の... 天智天皇元年...





磯礪山

寺領四千石

磯礪寺在村之二代の神祇寺也  
聖寶天皇延長四年十月十九日に供奉

湯島

社領三百石

湯島神社功皇成の湯島也

伏見里

湯島寺及三級ぬれ所の伏見里下  
し里のゆかりにありては人知ぬる也  
昔は鈴吹天奈宗先作第地名也  
川中の流石の石を伏見と云

揚枝

浮舟の舟りし揚の舟りしと云

石川

石川自廢殿下

又月夜に舟の舟りしと云

羽東

羽東の舟りしと云

中橋の舟りし水無乃明林の舟りし  
舟りしと云

表豆野

表豆野の舟りしと云

八橋山

社領六百七十七石

八橋山の舟りしと云

舟りしと云

舟りしと云

舟りしと云

舟りしと云

杉本

社領三百石

杉本の舟りしと云

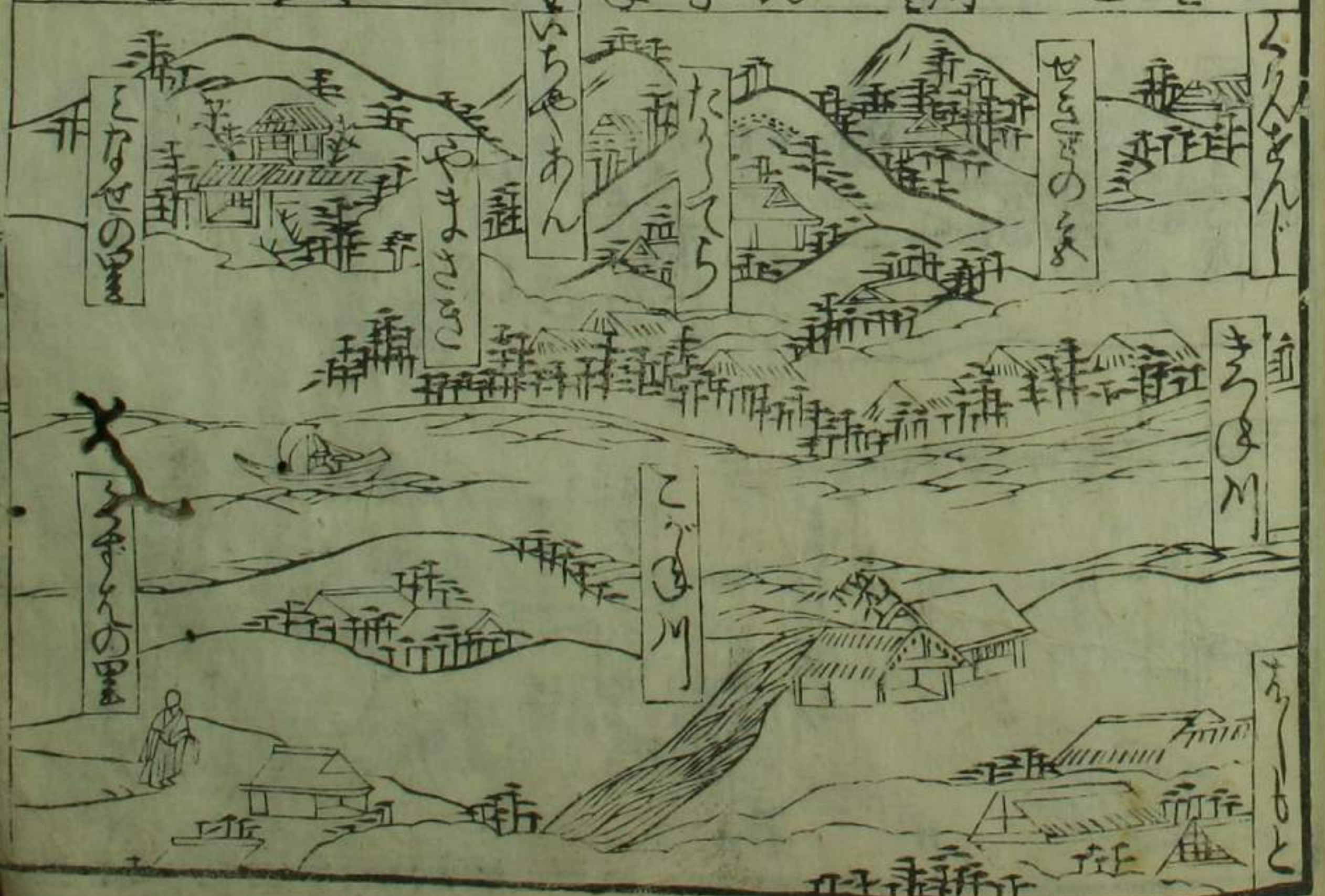
山崎

社領三百石

山崎の舟りしと云

舟りしと云

舟りしと云





繁陽せりり寺と村の食のきあり  
いづれより一池の名物

○水に漱ぎ 寺鎮六百石

云々のいふかたふかたを川原の園の昔れ通  
惟之親王流也 寺門院明也 寺  
子河邊にいづれに水に漱ぎ殿有る  
是ハ川筋の池也 寺の昔れ通の里に  
寺の昔れ通の里に

○諸井 寺鎮六百石

世のいづれに橋のなかりせり春のいづれに  
○林の野 寺鎮六百石

みづのいづれにの池の橋のいづれに春のいづれ  
植生天宮の通暦二年のいづれに

○田山

○田山 寺鎮六百石

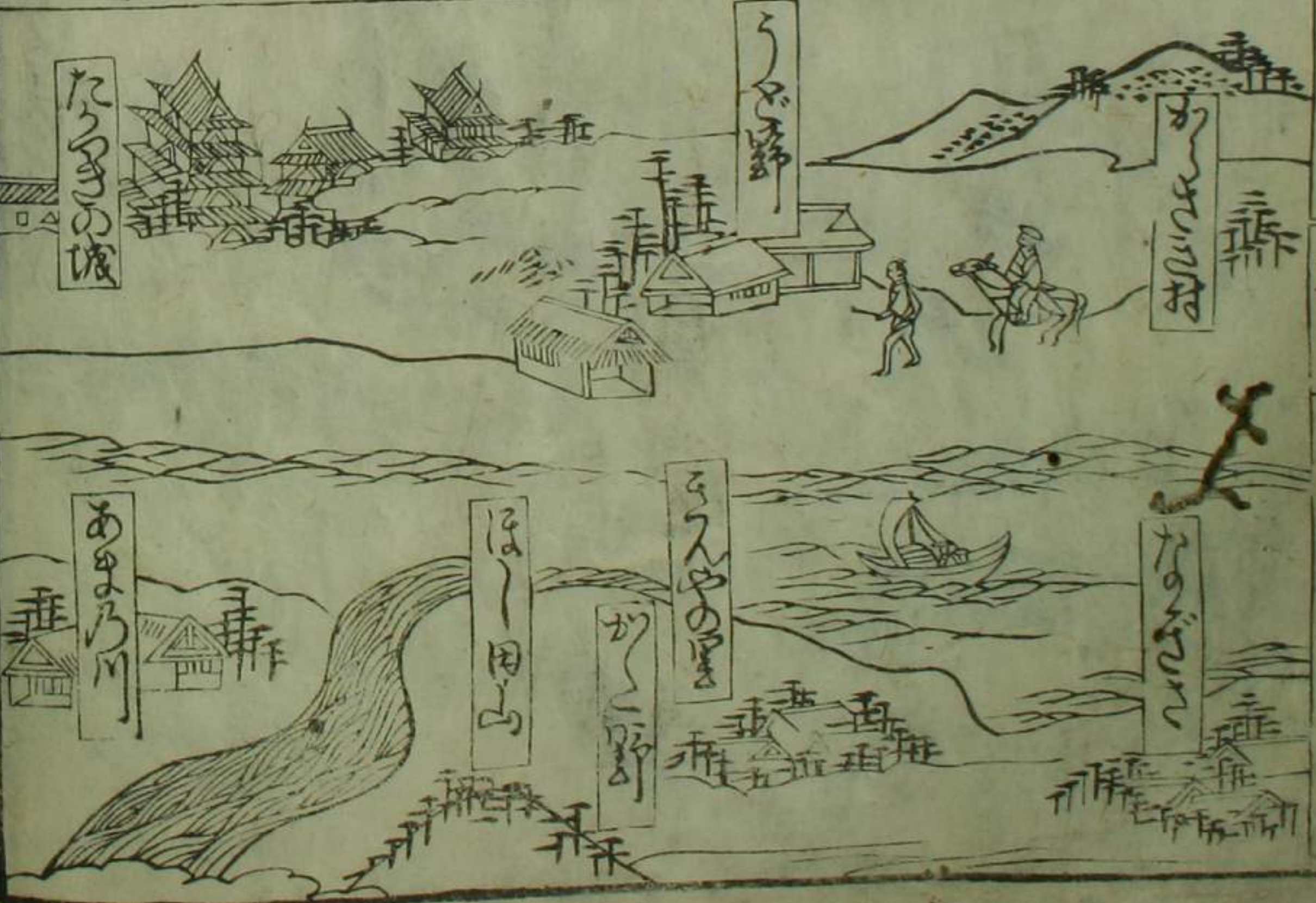
○田山

○田山 寺鎮六百石

○田山

○田山 寺鎮六百石

○田山



いづれに毎段の表のいづれに  
○田山 寺鎮六百石

○田山

○田山 寺鎮六百石

○田山

○田山 寺鎮六百石

○田山

○田山 寺鎮六百石

○田山

○田山 寺鎮六百石

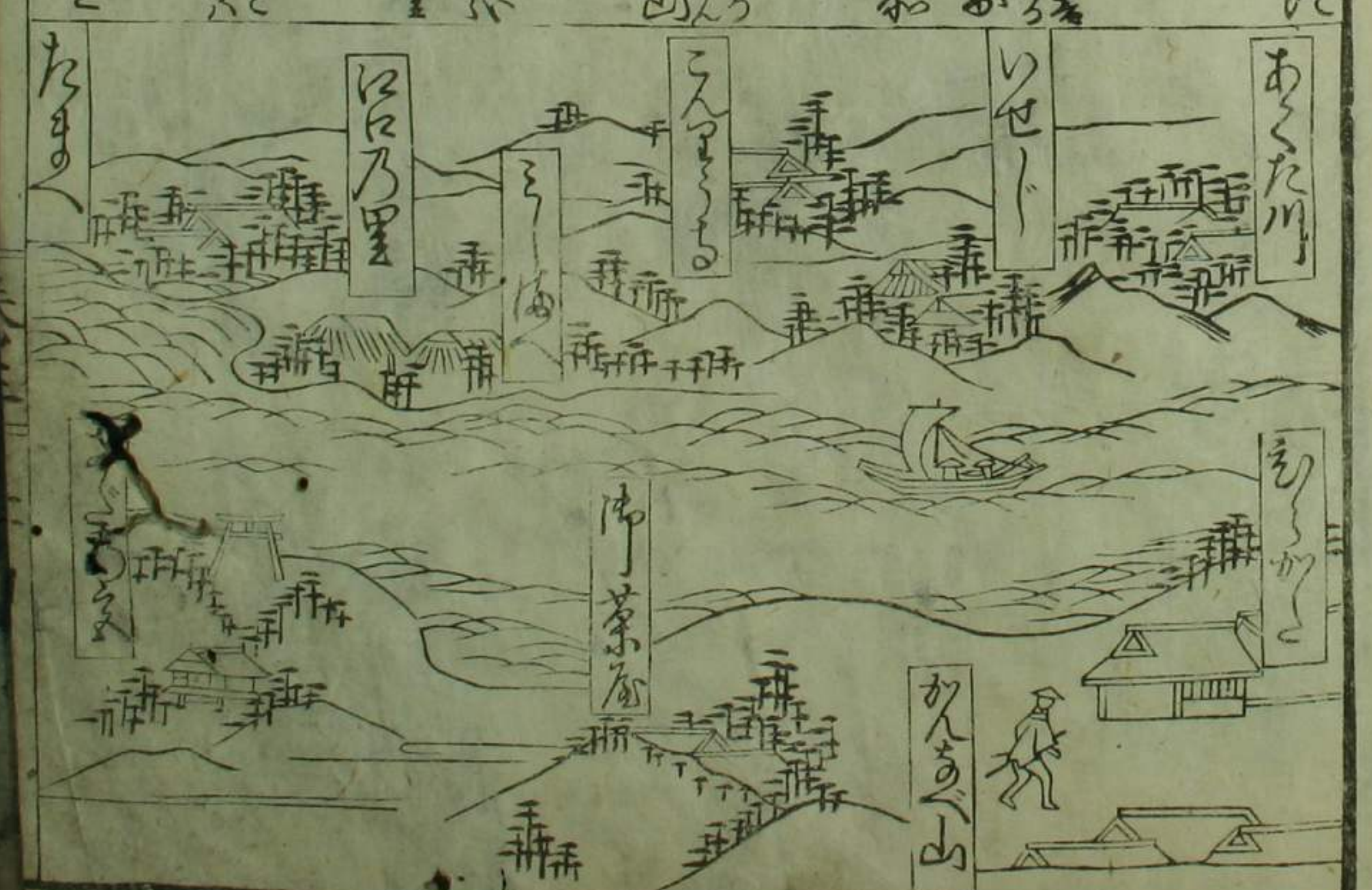
○田山

○田山 寺鎮六百石

○田山

○田山 寺鎮六百石

○田山





○平田村

平田村は、今市村並木の梅橋と  
細流名物也。今市村並木の梅橋と  
細流名物也。今市村並木の梅橋と  
細流名物也。今市村並木の梅橋と

○長柄川

長柄川は、今市村並木の梅橋と  
細流名物也。今市村並木の梅橋と  
細流名物也。今市村並木の梅橋と  
細流名物也。今市村並木の梅橋と









